

令和2年度 伊勢市における認知症に関する取り組み報告

[令和3年1月末現在]

1 認知症に対する理解促進

(1) 認知症サポーター養成

認知症に対する理解を深め、地域で見守る支援者の増加を目的に認知症サポーターを養成した。

実績	養成数：391人 ^{※1} （21回）
累計	養成数：10,386人 [平成21年度開始]

※1 内訳：市民73人(6回)、企業131人(6回)、
地域団体63人(4回)、学生81人(2回)、市職員43人(3回)

(2) 認知症サポーター・ステップアップ講座

チームオレンジ（認知症サポーター活動促進・地域づくり事業）

認知症サポーターを対象に、スキルアップ及び自主的な地域活動の促進を目的としたステップアップ講座を開催し、認知症の人やその家族を地域で支援する仕組みであるチームオレンジを育成した。

実績	【全市型】2回 延べ19人、実14人
	【地域型】①憩いの家たまちゃん 3回 延べ：18人、実：6人 ②みなとカフェ 1回 実：15人（予定 ^{※2} ）

チームオレンジ 累計	6拠点 内訳：令和元年度4拠点、令和2年度2拠点
---------------	-----------------------------

※2 令和3年3月より重層的に講座を実施し、チームオレンジとしての活動予定

(3) 次世代育成 認知症にやさしい応援団こども作文コンクール（別紙1）

子どもたちが日常生活での体験や読書を通じて「高齢者」や「認知症」について考え、優しい思いやりを育むきっかけとなるよう、作文コンクールを行った。

結果	応募数 市内11小学校 28点
----	-----------------

《 優秀賞7賞 》

伊勢市長賞、伊勢市議会議長賞、伊勢市教育委員会教育長賞、
伊勢地区医師会長賞、伊勢志摩区域連携型認知症疾患医療センター長賞、
伊勢市立伊勢図書館長賞、伊勢市立小俣図書館長賞

(4) 「認知症にやさしい図書館」の取り組み

① 企画展示の開催 期間：令和2年9月12日～30日

世界アルツハイマーデーに合わせ、伊勢・小俣図書館にて「認知症や介護に関する書籍」の特設の啓発展示を行った。



② 認知症本の処方箋（別紙2）

一般社団法人伊勢地区医師会、伊勢志摩区域連携型認知症疾患センターの協力のもと、伊勢市立図書館と協働で「本の処方箋」Vol.3、Vol.4を発行した。

2 認知症への早期対応の取り組み支援

(1) 認知症あんしんガイドブック（認知症ケアパス）の改訂・普及促進（別紙3）

認知症の状態に応じた適切な支援が行われるための効果的な情報発信を目的とした認知症あんしんガイドブック（第7版）を発行し、啓発事業や相談支援で配布した。

実績	380冊配布
累計	4,439冊配布 [平成28年度開始]

(2) 認知症初期集中支援チーム（もの忘れ相談チーム）の活動

各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員と連携し、認知症の本人及び家族の個別支援を実施した。また、昨年度より開始した緊急チーム員会議を積極的に活用し、緊急性の高いケースに対し迅速な対応を行った。

実績	会議回数：8回（内、緊急チーム員会議 ^{※3} 5回） 支援者数：延べ21人、実9人
累計	支援者数：延べ158人、実53人

支援終了後のモニタリング	36人（死亡を除く） 内訳：在宅生活21人、精神科入院中2人、入所・入居中13人
--------------	---

《会議出席者》

チーム員医師(3名)、市：保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士

地域包括支援センター：認知症地域支援推進員(保健師、看護師、社会福祉士) 他

※3 緊急チーム員会議はチーム員医師1名、市保健師、担当認知症地域支援推進員で実施

3 地域の見守りネットワークの構築と見守り強化

(1) 地域における見守り協定の締結と協力機関の登録(別紙4)

実績	協定期間：1機関、協力機関：3機関3カ所
累計	協定機関：26機関、協力機関：32機関127カ所

(2) 認知症高齢者等 SOS 見守りネットワーク「いせ見守りてらす」

① 見守りてらす登録制度

実績	新規登録者 22名、実登録者数 79名
----	---------------------

② 認知症高齢者等 SOS 家族支援サービス事業

位置情報システム(GPS 端末器)の貸与と初期費用助成

実績	新規利用者 5名、実利用者数 6名
----	-------------------

4 認知症に関する相談支援

市及び地域包括支援センターの地域支援推進員が中心となり認知症に関する相談支援を行い、包括的・継続的な支援体制の構築を強化した。

実績	認知症相談 708件 内訳：市 165件 地域包括支援センター(6カ所) 543件
----	---

5 認知症カフェの開催について [新規] (別紙5)

コロナ禍において、高齢者の地域活動や認知症カフェ等が活動縮小を余儀なくされている地域の現状を踏まえ、小規模の集い(認知症カフェ)をオンラインでつなぐという新たな手法を取り入れた「認知症トークカフェ伊勢つながりタイムオンライン plus」を開催した。

実績	2回 延べ17人、9組 ^{※4}
----	---------------------------

《会場》イオンタウン伊勢ララパーク内げんこころ一む、福祉健康センター

※4 内訳：[本人]延べ9人、実6人 [家族]延べ8人、実4人

6 認知症地域支援推進事業委託 [新規]

市内地域包括支援センター6カ所に認知症地域支援推進事業委託を開始し、認知症地域支援推進員を配置した。

(1) 主要な取り組み内容

認知症地域支援推進員を中心に、以下の内容について地域の実情に応じた取り組みを総合的に実施した。

① 認知症に対する理解促進	② 地域の見守りネットワークの構築
③ 認知症に関する相談支援	④ 認知症への早期対応の取り組み支援
⑤ 認知症の人や家族に対する支援	⑥ 若年性認知症に係る支援
⑦ 専門機関や認知症専門医等との連携	⑧ 地域の実情に応じた取り組み

(2) 認知症地域支援推進員担当者会議の開催

認知症地域支援推進員担当者会議を開催し、事業の取り組みの進捗状況を評価する共に、情報交換や好事例の共有及び検討を行った。

実績	3回（内1回はオンライン開催）
----	-----------------

《会議出席者》各地域包括支援センター長及び認知症地域支援推進員
市認知症地域支援推進員

7 今後の課題

1. 認知症に対する理解促進のさらなる推進について

各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員とともに、さらに幅広い年代層に認知症に関する理解促進を図る必要がある。学校や企業等にも積極的に働きかけ、啓発の機会を増やしていく。

2. 認知症の人やその家族を支える地域の仕組みづくりの推進について

各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員とともに、認知症サポーターステップアップ講座の開催やチームオレンジの育成を図り、認知症の人やその家族の地域ニーズとサポーターのマッチングや、地域の実情に応じたサポーターの活動が浸透していくよう、地域の仕組みづくりを積極的にすすめていく。

3. 認知症初期集中支援チームの活用促進

各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員とともに、迅速な支援体制の構築及び適時適応の支援遂行を目的とした認知症初期集中支援チームの活用が促進されるよう周知を行っていく。

4. 認知症に関する相談支援体制の強化

各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員とともに、認知症相談支援の資質向上及び地域支援の更なる充実を図りながら、途切れない支援体制を構築する必要がある。

5. 地域の見守りネットワークの構築と見守り体制の強化について

見守り協定及び協力機関とさらなる連携を図り、認知症の人やその家族が地域で安心して生活していくことができるよう、地域の見守りネットワークの強化を図っていく。